

## 第 82 回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

### ワークシステム

ワークシステムとは、今からする活動が、「何で」、「どのようにするのか」、「どれだけするのか」、「終わったら何があるのか」を伝えるために行うものです。どのような手順で作業すればよいのか、どれだけすればよいのか等がわからないと誰でも不安になるのではないかと思います。これらをわかるように伝えるために行うのがワークシステムなのです。

よく、ワークシステムとスケジュールの違いは何かと質問されるのですが、なかなか答えが難しいと思っている人もいないかと思えます。私は、移動を伴うものがスケジュール、その場でするものがワークシステムだと答えています。

写真はある小学生が使っていたワークシステムの例です。左側の三段ボックスに今からすべき課題が上から順番に入っています。そして子どもは、三段ボックスの上から順番に課題の入っているかごをとり、その中にある課題をします。もちろん、かごの中に入れてある課題も、視覚的にわかりやすくなしてあります。左に材料、右に完成品というような感じです。材料がなくなったら、終わりというように、終わりもわかりやすくなっています。最初の課題が終わると、机の右側にある大きなかごの中にしまうようにします。そして、子どもは左側の三段ボックスから次の課題を取ってきます。三段ボックスの上から順番に課題を取っていくので、ひとつずつ課題は無くなっていきます。三段ボックスにセットされていたすべて課題が無くなったら終わりということになります。なぜ、無くなったら終わりというようにしているのかというと、それは、時間に対する理解がまだできていないからです。時間の概念が育っている子どもの場合には、「あと何分しますよ」ということを伝えることで理解し、それを実行することができるのではないかと思います。しかし、時間を量として理解できない子どもの場合には、このように実際にする課題の量を調整して取り組むようにすることが大切なのです。



### 坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンパワメント研究所) など